

インフォメーション・コーナー

会 告

○社団法人農業農村工学会第43回通常総会の報告	84
○平成22年度名誉会員の推挙	85
○第22期理事役職者の選任および会務分担について	85
○平成23年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再)	86
○第34回水の週間「ウォーターフェア'10東京」農業用水の展示出展について(再)	86
○平成22年度JABEE農学系分野審査講習会への参加のお願い(再)	87
○学会誌および論文集の英文名変更に関する意見聴取について(再)	87
○土地改良施設管理基準及び運用・解説—排水機場編—発行のお知らせ(再)	87
○論文集のJ-STAGEへの登載と論文集投稿時の振込金の変更について(再)	88
○平成22年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について(再)	88
○学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	89
○「農業農村工学会学術基金」への募金について	89
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	89
○身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!	
「水土の知(農業農村工学会誌)」平成23年夏季の表紙写真の募集	90
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	91
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について	91
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと2009年1月から2011年12月までの編集事務局(投稿先)のお知らせ	92
○平成22年度東北支部総会・第53回東北支部研究発表会ならびに第44回東北支部研修会・第34回地方講習会の開催について(第2報) ㊦	92
○平成22年度京都支部講習会・シンポジウムの開催について(第1報) ㊦	93
○第67回京都支部研究発表会の開催について ㊦	94
○第48回畑地かんがい研究集会の開催について(第2報) ㊦	96
○農村計画研究部会第32回現地研修集会の開催について ㊦	97
○農地保全研究部会第31回研究集会の開催について(第1報) ㊦	98
○平成22年度資源循環研究部会研究発表会の発表申込みについて ㊦	98
○第23回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催について ㊦	99
○ICID第21回総会, 第8回国際マイクロ灌漑会議における発表論文の募集について(第2報)	99
学会記事	101

第78巻第8号予定

展望：エネルギー資源を供給する農山村：小林 久

小特集：農業農村工学分野における再生可能エネルギーの利用技術

- ①農業用水を利用した小水力発電に関する課題と方向性：上坂博亨ほか
- ②緩勾配水路における小水力利用技術：後藤眞宏ほか
- ③水熱源ヒートポンプによる農村地域の地中熱エネルギーの利用：奥島里美ほか
- ④潮力波力発電の最近の動向と海岸保全整備への利用可能性：丹治 肇ほか
- ⑤水田放牧の飲水場管理における太陽光エネルギーの利用：中尾誠司

技術リポート

北海道支部：水質保全に配慮して疎水材に石灰石を用いた暗渠排水の効果：嶋村幸仁ほか

東北支部：七五三掛(しめかけ)地区地すべりのGPSによる動態観測：三浦智明ほか

関東支部：頭首工取水ゲートの遠隔操作化による用水路の溢水防止：太田純治

京都支部：神通川流域カドミウム汚染田復元30年の歩み：河合義則

中四国支部：農業用ため池防災カルテの作成と危険度評価：佐々木伸浩ほか

九州支部：生態系への配慮と農業生産活動の両立：西川紀和視

小講座：太陽光発電：菅沼良之

私のビジョン：圃場から届ける「おいしさ」を支える農業農村工学：北川 巖

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成22年8月 26,27日	畑地整備研究部会	第48回畑地かんがい研究集会	ⓑ くだもの王国を支える栽培・灌漑技術	岡山市, 倉敷市	78巻5,7号
平成22年8月 31日～9月3日	大会運営委員会	平成22年度農業農村工学会大会講演会	ⓑ	神戸市	77巻12号 78巻1,3,4,6号
平成22年9月 9,10日	農村計画研究部会	第32回現地研修集会	ⓑ 水で結ぶ新たな絆を次世代に	高松市	78巻5,7号
平成22年10月 7,8日	農地保全研究部会	第31回研究集会	ⓑ	前橋市	78巻7号
平成22年10月 14,15日	京都支部	平成22年度講習会・シンポジウム	ⓑ	名古屋市	78巻7号
平成22年10月 19,20日	九州支部	第91回講演会・ポスターセッション・第33回講習会・シンポジウム・現地見学会	ⓑ	熊本市	78巻6号
平成22年10月 20日	関東支部	第61回大会講演会	ⓑ	甲府市	78巻6号
平成22年10月 27,28日	中国四国支部	第65回講演会・第34回地方講習会	ⓑ	山口市	78巻6号
平成22年11月 17～19日のうち 一日	資源循環研究部会	平成22年度研究発表会	ⓑ 農村における水やバイオマス等資源の利活用及び循環に係る調査・研究の最新成果	東京都	78巻7号
平成22年11月 18,19日	東北支部	第53回研究発表会・第44回研修会・第34回地方講習会	ⓑ	盛岡市	78巻6,7号
平成22年11月 18,19日	京都支部	第67回研究発表会	ⓑ	津市	78巻7号
平成22年11月 25,26日	水文・水環境研究部会	第23回シンポジウム	ⓑ 農林地および広域の水文・水環境	宇都宮市	78巻7号

社団法人農業農村工学会第43回通常総会の報告

第43回通常総会を開催したので、報告いたします。

- 日時** 平成22年5月19日(水) 14:30～15:30
- 場所** 農業土木会館6階大会議室
- 出席者** (代議員総数 110名)
出席代議員 16名, 議決事項について書面で意思表示をしたことにより出席とみなされる代議員 14名, 委任状提出の代議員 60名, 計 90名
- 開会**
事務局より出席代議員が、定款第30条に規定する定足数を満たしていることを確認し、成立している旨を告げ、開催を宣した。
- 会長挨拶** 宮崎 毅会長
- 議長選出**
宮崎 毅会長を仮議長とし、定款第34条の規定により議長選出を諮り、全員一致をもって後藤 章代議員を議長に選出した。
- 議事録署名人選任**
議長の指名一任により、議長は次の2名を議事録署名人に選任した。
齋藤公三, 松浦良和代議員
- 議案審議**
(1) 議案 1. 平成21年度事業報告

事務局から「第43回通常総会議案」により内容を説明。

- 原案どおり決定された。
- 議案 2. 平成21年度収支決算
事務局から「第43回通常総会議案」により内容を説明。原案どおり決定された。
 - 議案 3. 平成22年度事業計画
事務局から「第43回通常総会議案」により内容を説明。原案どおり決定された。
 - 議案 4. 平成22年度収支予算
事務局から「第43回通常総会議案」により内容を説明。原案どおり決定された。
 - 議案 5. 名誉会員の推挙
事務局から「第43回通常総会議案」により内容を説明。原案どおり決定された。
 - 第22期役員を選任
事務局から代議員による選挙で役員候補者選出について説明。定款第20条第1項の規定により、下記の27名を6月1日より2年間の任期で役員に選任(再任7名, 新任20名)した。
再任された役員(7名)
理事 有好利典, 岩崎和己, 河地利彦, 小前隆美,

戸澤正彦, 村上 章, 渡邊紹裕
 新任された役員(20名)
 理事 内田一徳, 大島洋介, 大堀忠至, 木村和弘,
 北村義信, 佐藤照男, 佐藤政良, 塩沢 昌,
 嶋 栄吉, 高木 東, 高見浩三, 辻 修,

中條康朗, 中山 晃, 野中資博, 春山成子,
 平松和昭, 溝田大助

監事 佐々木清貴, 八丁信正

9. 閉 会

以上をもって全議案の審議を終了し、総会は終了した。

平成 22 年度名誉会員の推挙

第 43 回通常総会の議により、「名誉会員の推挙に関する内規」に則って第 213 回理事会で推薦された次の正会員（敬称略）を名誉会員に推挙した。これにより名誉会員の現在数は、212 名となった。

阿部四郎, 井手光男, 宇和川正人, 遠藤紀寛, 大原芳夫,
 加納利博, 川合 亨, 黒澤正敬, 小坂公夫, 後藤兵作,
 丹 道晴, 富田正彦, 豊國永次, 中道 宏, 福櫻盛一,
 藤澤 和, 堀部孝一, 宮本和美, 米原 宏

第 22 期理事役職者の選任および会務分担について

平成 22 年 6 月 8 日開催の第 215 回理事会において、理事の互選（定款第 20 条第 2 項）により会長、副会長、専務理事を選出したほか、第 22 期理事の会務分担および常置委員会委員長等を次のとおり定めた。

記

1. 会長等

会 長 河地利彦（京都大学大学院農学研究科教授）
 副 会 長 中條康朗（（独）水資源機構副理事長）
 副 会 長 佐藤政良（筑波大学大学院生命環境科学研究科教授）
 副 会 長 大堀忠至（NTC コンサルタンツ（株）代表取締役社長）
 専務理事 岩崎和己（（社）農業農村工学会）

2. 理事の担当部門

	〔担当部門〕	〔総括する副会長〕	〔担当理事〕
企画・運営業務	中條康朗	戸澤正彦, 大島洋介, 嶋 栄吉, 高見浩三, 春山成子, 溝田大助	
学会誌等定期刊行活動	佐藤政良	小前隆美, 塩沢 昌, 高見浩三, 春山成子, 村上 章, 辻 修, 佐藤照男, 木村和弘, 内田一徳, 北村義信, 高木 東	
講演会等行事活動	大堀忠至	野中資博, 有好利典, 小前隆美, 戸澤正彦, 中山 晃, 溝田大助	
調査・研究活動	佐藤政良	村上 章, 大島洋介, 塩沢 昌, 野中資博, 平松和昭, 渡邊紹裕	
出版活動	大堀忠至	大島洋介, 有好利典, 小前隆美, 渡邊紹裕	
国際活動	佐藤政良	嶋 栄吉, 中山 晃, 村上 章	
技術者教育活動	中條康朗	中山 晃, 平松和昭, 塩沢 昌, 有好利典, 小前隆美, 高見浩三, 戸澤正彦, 野中資博, 溝田大助	
支部業務活動	中條康朗	佐藤政良, 大堀忠至 辻 修, 佐藤照男, 木村和弘, 内田一徳, 北村義信, 高木 東	

3. 第 22 期常置委員会委員長等

企 画 委員会	戸澤正彦	広 報 委員会	大島洋介	学術基金運営 委員会	中條康朗
定期刊行物	〃 佐藤政良	学会誌編集	〃 村上 章	論文集編集	〃 塩沢 昌
PWE 日本	〃 春山成子	行 事 企 画	〃 大堀忠至	研 究	〃 渡邊紹裕
上野賞選考	〃 野中資博	学会賞選考	〃 佐藤政良	出 版 企 画	〃 小前隆美
国 際	〃 嶋 栄吉	JABEE 担 当	平松和昭	スチューデント委員会担当	嶋 栄吉

平成 23 年度農業農村工学会賞候補の推薦について (再)

平成 23 年度の農業農村工学会賞 (上野賞, 沢田賞を除く) 締切りは、平成 22 年 10 月末日です。推薦書様式および、
を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。 授賞規程は学会 HP をご参照下さい。

平成 23 年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞	
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象範囲および期間	平成 17 年 10 月から平成 22 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 19 年 10 月から平成 22 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 19 年 10 月から平成 22 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 21 年 10 月から平成 22 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。	平成 20 年 10 月から平成 22 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等を原則とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成 17 年 10 月から平成 22 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された技術リポート	
受賞候補者	会員			会員または会員の属する組織・団体		会員	
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。			正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広げ世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる業績	農業農村工学教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工の事例並びに管理・保全活動	農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介、あるいは研究分析の業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介した優れたパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象範囲および期間	平成 12 年 10 月から平成 22 年 9 月までに出版されている一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。	平成 12 年 10 月から平成 22 年 9 月までの業績を対象とする	平成 20 年 10 月から平成 22 年 9 月までに本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建設物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成 17 年 10 月から平成 22 年 9 月までの業績を対象とする	平成 17 年 10 月から平成 22 年 9 月までの活動を対象とする	平成 17 年 10 月から平成 22 年 9 月までの活動を対象とする	平成 20 年 10 月から平成 22 年 9 月までに発表された、農業農村工学に関連した作品を対象とする。	平成 22 年度末に 65 歳以上に達している個人
受賞候補者	著者 会員の資格の有無を問わない	会員または会員の属する組織・団体	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員または会員の属する組織・団体	会員	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員 (名誉会員を除く)
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) も返却しない。	正会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。

選考の方法	学会賞選考委員会において行う
賞の決定	理事会において行う
表彰	農業農村工学会大会講演会において会長が授与する
推薦締切	平成 22 年 10 月末日
提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛

第 34 回水の週間「ウォーターフェア '10 東京」農業用水の展示出展について (再)

農業用水展示実行委員会

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会主催『ウォーターフェア '10 東京』は例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として、関係諸団体の協力を得て、農業農村工学会が農業用水展示

実行委員会を組織し、昨年までと同様に展示の準備を進め出展することとなりました。

多くの方の来場をお待ちしております。

展示の場所 科学技術館 (千代田区北の丸公園 2-1)

期 日 平成 22 年 7 月 30 日 (金) ~8 月 1 日 (日)

9 : 30 ~ 16 : 50 (初日のみ 10 : 30 ~)

平成 22 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い (再)

技術者教育認定に関する検討委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



本年も JABEE 農学系分野審査講習会が 7 月 24 日に東京大学弥生講堂にて開催されます。多くの皆様の参加を期待しております。本講習会は JABEE 公認で、講習会の参加修了者は JABEE 審査員候補者として登録され、本審査のオブザーバー参加を経て審査員の資格が得られます。奮って、ご参加下さい。(なお、プログラム、参加申込書等、詳細は決定次第農業農村工学会ホームページに掲載する予定です。)

1. 日 時 平成 22 年 7 月 24 日 (土) 9 : 25 ~ 17 : 30
(17 : 30 より情報交換会あり)
2. 場 所 東京大学弥生講堂
〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学農学部内

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

3. 参加費 5,000 円 (当日現金にて受付)
4. 情報交換会費 2,000 円 (当日現金にて受付)
5. 申込方法
農業農村工学会ホームページより、申込書および審査員登録票 (電子メール版) をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記へ電子メールでお申し込み下さい。
6. 申込先 農業農村工学会事務局 花塚賀史
E-mail : hanatsuka@jsidre.or.jp
7. 申込締切 平成 22 年 7 月 16 日 (金)

学会誌および論文集の英文名変更に関する意見聴取について (再)

学会誌編集委員会・論文集編集委員会

学会誌編集委員会と論文集編集委員会では、それぞれの英文名について検討を行い、変更案を作成いたしました。

つきましては、両委員会での検討内容をもとに、英文名の変更に関して、会員各位からご意見をいただきたくお願い申し上げます。多くの会員各位からのご意見をお待ちしております。

なお、ご意見は、平成 22 年 8 月 13 (金) までに、電子メールにて学会事務局編集出版部 (henshu@jsidre.or.jp) までお送り下さい。

◆論文集編集委員会

論文集の現在の英文名は「Transactions of the Japanese Society of Irrigation, Drainage and Rural Engineering (引用のための略記 : Trans. of JSIDRE)」ですが、「Transactions」では会議録などの意味で受け止められる可能性もあり、本誌が名実ともに、学術的な論文集であることを示すには、やはり国際的に広く用いられている「Journal」という呼称を用いるのが適当であると思われます。

このようなことから、論文集編集委員会では、論文集の新たな英文名として下記を採用することを提案いたします。

新英文名称 (案)

Irrigation, Drainage and Rural Engineering Journal (引用のための略記 : IDRE Journal)

◆学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、論文集の英文名変更の提案を受け、学会誌の現在の英文名「Journal of the Japanese Society of Irrigation, Drainage and Rural Engineering」について検討を行いました。その結果、論文集、学会誌の両誌に、ともに「Journal」の呼称を用いることは好ましくなく、学会誌についても名称変更することが適当であるとの結論に至りました。

このようなことから、学会誌編集委員会では、学会誌の新たな英文名として下記を採用することを提案いたします。

新英文名称 (案)

Water, Land and Environmental Engineering

土地改良施設管理基準及び運用・解説—排水機場編—発行のお知らせ (再)

このたび、土地改良施設管理基準及び運用・解説—排水機場編—が、平成 22 年 4 月 19 日に発行されました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。
※詳しくは本誌 5 月号に改訂の主旨を掲載いたしましたので、ご参照下さい。

書籍名…土地改良施設管理基準及び運用・解説—排水機場編—
価 格…2,400 円 (税込・送料学会負担)
規 格…A4 判 約 220 ページ

申込方法

- I. 役所等で、公用として購入される場合 (代金後払)
 - FAX かメールでお申し込み下さい。様式は問いません。
 - ご希望冊数、送付先住所、請求書の宛名をご記入下さい。
- II. 個人、会社で購入される場合 (代金先払)
 - ①現金書留 : 書籍代金と、書籍名、冊数を書いた文書をご同封下さい。
 - ②郵便振替 (00160-8-47993) : 振替用紙の通信欄に書籍

名、冊数をご記入下さい。

申 込 先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会事務局 図書係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

論文集の J-STAGE への登載と論文集投稿時の振込金の変更について (再)

論文集編集委員会

論文集の J-STAGE への登載について、論文集購読者へのアンケートおよびホームページにおけるパブリックコメント聴取を経て、発行1年後に論文集掲載論文を J-STAGE へ登載すること、また、登載料として著者に4,000円を負担していただくことを第210回理事会(平成21年5月19日開催)において決定し、論文集259号(平成21年2月号)より J-STAGE へ登載すべく準備を進めております。

現在、投稿料16,000円を投稿時にお振り込みいただいておりますが、J-STAGE への登載料4,000円についてもあらかじめ徴収することとし、平成22年4月1日受付分より合計

20,000円をお振り込みいただくことといたしました。

その理由としては、論文集の発行と同時に J-STAGE へ登載するために JST に支払う必要があるからです。

ただし、審査の結果、投稿論文等が掲載不適となった場合は、登載料4,000円は返金いたします。

なお、論文集259号以降に掲載された論文等についての登載料は遡って著者に請求させていただきますので、ご了承くださいたくよろしくお願い申し上げます。

論文集259号の J-STAGE への登載時期は、今年の夏以降を予定しております。

平成22年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について (再)

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度(平成22年度、原則1件20万円以内)です。

本年度の申請締切は平成22年9月17日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎します。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要な事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示す。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成金の配布グループと金額を決定する。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。

4. 助成対象：申請できる条件は次のとおり。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成22年9月17日(金)

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail : tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名(または部会名)
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

学会誌を出典とした通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD ポイント、また、通信教育で最大年間 24 CPD ポイントが取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

なお、学会誌 2 月号に掲載された通信教育問題から配点を改正(正解率 70% 以上の場合 1.0 CPD ポイントから 1.5 CPD ポイントへ、正解率 100% の場合 1.5 CPD ポイントから 2.0 CPD ポイントへ)いたしました。詳細については、第 53 回通信教育問題(学会誌 2 月号 65 ページ)をご参照下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で、かつ CPD 会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd>) にある参加申込書に必要事項を記入してメール (E-mail: kaito@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、技術者継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 内 容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、CPD 運営委員会通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメール (E-mail: kaito@cpd.jsidre.or.jp) で機構に送信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1.5 CPD ポイント、満点で 2.0 CPD ポイントが取得でき、CPD 会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

5. 通信教育受講者の特典

採点結果は自動入力されますので、毎年 4 月中に取得した点数を本人にお知らせし、5 月上旬から希望により有料で「CPD 取得証明書」を発行します。

「農業農村工学会学術基金」への募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成 21 年度までに 54 件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000 円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000 円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行:みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替:00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況を鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採

用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大

な被害が発生した自然災害」, 「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して, 災害発生後, 直ちに災害対応調査団を派遣し, 調査の実施, 復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで, 災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に, 早急に対応できるよう, 調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果, 登録された会員は, 災害対応調査団候補者名簿(2年ごと更新)に記載して, 緊急災害時等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお, 災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は, 以下のとおりです。

① 調査団の候補者は, 高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

② 派遣する調査団員は, 候補者名簿の中から選定する。

③ 調査団の派遣期間は, 原則 2~3 日とする。

④ 調査団派遣に関わる旅費は, 農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額 300 万円)。

⑤ 調査団員に対して, 調査に必要と考えられる保険を掛ける。

⑥ 調査団は, 調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ, 学会事務局 FAX 03-3435-8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご参加をお待ちしております。

なお, 登録頂いた個人情報, は, 災害対応調査にのみ活用し, 適切に取り扱います。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知(農業農村工学会誌)」平成23年夏季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では, 平成23年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して, 水を制する, 水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路, 頭首工, 堰堤などの水利施設は, 今も過酷な自然の猛威にさらされながらも, 農業経営, 防災などの面で人々の生活を支えています。また, それぞれの機能を発揮するとともに, 年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み, その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも, 私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には, 規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま, 日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき, 忙しい業務の合間にも, 足を止め, 手を休めて写真として記録いただき, 広く学会員にご紹介下さい。特に今回は, 「夏」が感じられる「水利遺構」の写真を集めます。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」
(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第79巻(平成23年1~12月号)のうち, 特に夏季のもの

3. 写真の種類

単写真, 組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮

影して下さい(サイズは六ツ切)。組写真の場合は, その旨明記して下さい。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが, 未発表のものに限ります。

5. 締 切

平成22年9月30日(夏季の写真)

6. 審 査

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第79巻第1号で採用作品と掲載号を発表し, 採用作品は平成23年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)をお支払いします。また, 応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History(表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History(表紙写真由来)」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は, 採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお, 些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は(社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから, 募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか, 表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には, 水利構造物の形状や機能が, その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと), また, デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること, が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより, 応募票をダウンロードし, タイトル,

郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (社) 農業農村工学会
 農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係
 ☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
 E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 78, 79 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷上り 4ページ厳守)
78 巻 9 号 広域的な防災・減災技術とリスク管理による災害に強い農村づくり (仮)	公募終了	
10 号 農業農村整備事業を契機とした農村環境の保全 (仮)	公募終了	
11 号 コスト縮減に資する圃場整備 (仮)	公募終了	
12 号 小特集なし		
79 巻 1 号 教育の場における次世代育成の現状と課題 (仮)	公募なし	平成 22 年 9 月 10 日
2 号 ため池と農業農村工学 (仮)	平成 22 年 8 月 25 日	平成 22 年 10 月 12 日
3 号 農村における生物多様性の保全 (仮)	公募なし	
4 号 地域貢献とフィールド研究 (仮)	平成 22 年 10 月 25 日	平成 22 年 12 月 10 日
5 号 土および土中構造物数値解析の農業農村工学における最前線 (仮)	平成 22 年 11 月 25 日	平成 23 年 1 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたし

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて
 ☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
 E-mail : henshu@jsidre.or.jp

国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと
 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2010 年 6 月末に Vol.8, No.2 が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっております。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)

- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年 4 回無料で配布されます。

出版社 : Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール : 2003 年 3 月創刊, 以後 3 カ月ごと

国際学会会費 : 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員（院生含む）8,500円/年/4冊（送料等学会負担）

申込先：農業農村工学会編集出版部 中村あて
ホームページ：http://www.jsidre.or.jp

※入会のお申込は、学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2010年6月末にVol.8, No.2が発刊されました。

わが国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)のIF (Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指してきました。

また、世界13カ国からEditor(14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer-Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

このような努力が実り、2009年12月、本ジャーナルがトムソン・ロイター社のSCIEに収録され、インパクトファクターを獲得したというビッグニュースが飛び込んできました。詳細についてはEditor-in-Chiefによる海外ニュースが本誌1月号88ページに掲載されていますのでご参照下さい。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）は、台湾になります。

投稿先：Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No.1, Sec.4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R.O.C)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862-2-3366-3467

FAX: +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

• Editor-in-Chief : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Professor Emeritus, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から14名

• Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Prof. Dr. Yoshiyuki SHINOBU

Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan.

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

出版社：Springer-Verlag社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：<http://www.jsidre.or.jp>に詳細を記載しています。

平成22年度東北支部総会・第53回東北支部研究発表会 ならびに第44回東北支部研修会・第34回地方講習会の開催について（第2報）

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期日 平成22年11月18日（木）、11月19日（金）

2. 会場 「アイーナ」(18日)

いわて県民情報交流センター

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1

☎019-606-1717 FAX 019-606-1716
 「ホテルルイズ」(19日)
 〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通 7-15
 ☎019-625-2611 FAX 019-625-2673

3. プログラム

(支部研修会・地方講習会の詳細は、本誌第78巻第8号掲載予定の「第3報」を参照願います。)

<第1日目>11月18日(木)

- (1) 総会ならびに研究発表会
 - 9:00~9:30 受付
 - 9:30~10:15 支部総会
 - 10:15~10:45 支部賞授賞式
 - 10:45~11:00 休憩
 - 11:00~12:30 支部60周年記念講演・シンポジウム
 - 12:30~13:30 昼食・休憩
 - 13:30~17:00 第53回支部研究発表会

(2) 情報交換会

18:00~19:30 会場:「ホテルルイズ」

<第2日目>11月19日(金)

- (3) 支部研修会・地方講習会
 - 9:00~9:30 受付
 - 9:30~9:40 開会挨拶
 - 9:40~12:00 第44回支部研修会
 - 12:00~13:00 昼食・休憩
 - 13:00~15:20 第34回地方講習会
 - 15:20~15:30 閉会

4. 参加申込み

平成22年度の大会全般を岩手県が担当しますが、研究発表会のプログラム編集は岩手大学が担当します。

本報では「研究発表申込み」についてご案内し、「参加申込み」等は、本誌第78巻第8号掲載予定の「第3報」においてご案内する予定です。

- (1) 研究発表申込み/問合せ先

研究発表要旨集原稿に投稿票を添えて、下記にお申し込み下さい。

〒020-8550 盛岡市上田 3-18-8

岩手大学農学部共生環境課程 小林幹佳(こばやし もとよし)

TEL&FAX 019-621-6190

E-mail: mkoba@iwate-u.ac.jp

(2) 要領

研究発表要旨集原稿・投稿票の書き方については下記の農業農村工学会ホームページを参照して下さい。<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/22shibu/>

(3) 発表時間・発表手段

発表時間は15分以内(発表12分, 質疑3分)
 発表補助手段(パソコン使用可 Power Point, CD-R, USBメモリ使用可)

(4) 研究発表申込み受付期間

平成22年8月10日(火)~8月31日(火)

【締切厳守】

5. 会場への案内

「アイーナ」いわて県民情報交流センター

(1) JR利用の場合

・JR盛岡駅西口から徒歩4分

(2) 航空機利用の場合

・いわて花巻空港より空港連絡バスで約53分

・空港連絡バス盛岡駅前バス停下車, 徒歩4分

「ホテルルイズ」

(1) JR利用の場合

・JR盛岡駅東口から徒歩3分

(2) 航空機利用の場合

・いわて花巻空港より空港連絡バスで約53分

・空港連絡バス盛岡駅前バス停下車, 徒歩3分

6. 宿泊について

宿泊についての斡旋はいたしませんので、ご了承下さい。

平成22年度京都支部講習会・シンポジウムの開催について(第1報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成22年度京都支部講習会・シンポジウムを下記のとおり平成22年10月14日(木), 15日(金)の2日間にわたり開催します。

記

1. 日時

- (1) 地方講習会 : 平成22年10月14日(木)
13:00~17:00 予定
- (2) シンポジウム : 平成22年10月15日(金)
10:00~17:00 予定

2. 内容

今年は名古屋で生物多様性条約締約国会議(COP10)が開催

されますので、例年の研修会に代わり、農業農村工学会京都支部および農業農村工学会生物多様性国際会議対応小委員会を主催、農業農村工学会農村生態工学研究部会を後援とし、「農村における生態系の保全(仮称)」をテーマにCOP10パートナーシップ事業としてシンポジウムを予定しています。

3. 場所

中電ホール
 〒461-0006 名古屋市東区東新町1番地
 TEL&FAX 052-951-6908

4. 問合せ先

東海農政局整備部設計課 梅田, 筒井

第 67 回京都支部研究発表会の開催について

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 研究発表会

- (1) 日時 平成 22 年 11 月 18 日 (木)
10:00~17:00 (受付開始 9:00~)
- (2) 会場 (開会式~講演会~分科会)
三重県総合文化センター
(三重県津市一身田上津部田 1234)
- (3) 会場までのアクセス
JR・近鉄「津駅」西口から路線バス約 5 分 (徒歩の場合
は約 25 分)

2. 情報交換会

- (1) 日時 平成 22 年 11 月 18 日 (木) 18:30~20:00
- (2) 会場 三重県総合文化センター内 文化会館レセプションルーム

3. 現地研修会

- (1) 日時 平成 22 年 11 月 19 日 (金)
9:00 津駅西口発 16:00 津駅東口着
- (2) 内容
「鈴鹿・ものづくりコース」
 - ①畑地帯総合農地整備事業中の山地区(亀山市太森町)
昭和 46 年から昭和 58 年に農地開発事業により
造成された農地は茶園を中心とした県内有数の優良
農地です。本事業によって灌漑施設と道路の整備を
行い、耕地賃借によって大規模経営生産組織を確立
しました。あたり一面茶畑の景色は壮観です。
 - ②鈴鹿サーキットランド(鈴鹿市稲生町)
国際レーシングコースを中心とした施設で、モータースポーツ都市『鈴鹿』の象徴的存在となっています。10 月には F1 日本グランプリが開催されます。今回の研修ではコースのバックヤードおよび V.I.P. ルームを見学する予定です。
 - ③県営防災ダム事業奈良池地区(鈴鹿市住吉町)
灌漑面積約 10 ha の農業用ため池です。洪水が頻繁に発生する本地区の農地と民家等の被害を軽減するため、利水容量の確保と洪水調整容量の確保が可能な構造に改修されました。洪水吐工には施工例が少ないラビリンス堰を採用しています。
 - ④ホンダ鈴鹿製作所(鈴鹿市平田町)
鈴鹿製作所は 1960 年にホンダの国内 3 番目の工場として設立されました。ここでは世界のベストセラーカー・シビックやフィットそしてハイブリッドカーのインサイトなど幅広く生産しています。
「美し国・お伊勢さんコース」

- ①広域農道整備事業中南勢 2 期地区 1 号トンネル工事(松阪市阿波曾町)

平成 22 年 11 月末に幅員 7.0 m, 延長 970 m の広域農道トンネルが開通します。供用開始直前のトンネルをゆっくり視察することができます。

- ②伊勢神宮内宮(伊勢市宇治今在家町)

伊勢神宮内宮は五十鈴川沿いに鎮座し、天照大神を奉っています。1300 年ほど前から 20 年ごとに神殿を建て替える式年遷宮を行っており、平成 25 年の第 62 回式年遷宮に向けて諸祭が行われています。

- ③おはらい町・おかげ横丁(伊勢市宇治中之切町)

伊勢神宮内宮の鳥居前は「おはらい町」と呼ばれ、切妻・妻入りの建物が軒を連ね、歴史的な景観を保っています。土産物屋、飲食店が多く、お伊勢参りの観光客でにぎわっています。おはらい町の一角に、江戸時代から明治時代の伊勢の町並みを再現した「おかげ横丁」があります。

- ④国営かんがい排水事業宮川用水第 2 期地区斎宮調整池(多気郡明和町大字池村)

斎宮調整池は、国営宮川用水第二期土地改良事業により建設された貯水量 200 万 m³, 満水面積約 30 ha の調整池です。植付け時期等の水需要のピーク時に安定的な水供給を行うことができます。

- ⑤松阪農業公園ベルファーム(松阪市伊勢寺町)

2004 年に開園した約 29 ha の農業公園で、英国園芸研究家ケイ山田氏監修によるイングリッシュガーデンが見どころです。地元松阪ならではの農産物や特産品の販売があります。

4. 研究発表申込み

研究発表者は、投稿原稿に先立ち、平成 22 年 8 月 10 日までに、①表題(仮題でも可)、②発表者名、所属、年齢(研究奨励賞対象者のみ)、③連名者名、所属、年齢(研究奨励賞対象者のみ)、④希望発表部門(水理、水文・気象、土壤物理、土質力学、応用力学、材料・施工、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他)、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者の E-mail アドレス(利用可能な場合)を記入した申込書(様式任意)を、下記の申込先・神戸大学長野あてに E-mail (件名を「発表申込み」として下さい)あるいは CD (txt ファイル)でご郵送下さい。ただし、発表者は学会員に限らせていただきます。

なお、京都支部では、大学、短期大学、研究機関に所属する発表時 35 歳以下の会員（学生会員も含む）によって口頭発表された優秀な研究に対し、研究奨励賞を授与しています。同賞の受賞基準に該当する方(35 歳以下の連名者を含む)は、必ず申込書に年齢を記入して下さい。

5. 投稿の申込み等

(1) 原稿投稿先および期限

研究発表申込みをされた方は、下記の投稿要領に基づき作成した講演要旨原稿に投稿票（様式は、<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/22shibu/form.xls> よりダウンロードして下さい。）を添えて、平成 22 年 8 月末日までに、下記・神戸大学長野あてに届くようお送り下さい。

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
神戸大学大学院農学研究科 長野宇規
TEL&FAX 078-803-5904
E-mail : naganot@ruby.kobe-u.ac.jp

(2) 投稿要領

- ・投稿発表者は、農業農村工学会会員とします。
- ・投稿要領および原稿の書式については、農業農村工学会ホームページ内の「支部講演会の投稿票について」(<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/22shibu/>) を参照して下さい。枚数は図面を含めて 2 枚とします。発表時間は 12 分（質疑応答は 3 分）です。原稿はそのまま印刷しますので、鮮明なものを提出して下さい。発表の補助道具としてパソコン（OS は WindowsXP、ソフトは PowerPoint 2003）を準備します。データは CD-R、USB メモリーをご用意下さい。（OHP、ビデオプロジェクトを希望する場合はご連絡下さい。）

6. 参加申込方法

(1) 参加申込み

参加申込みは、農業農村工学会ホームページ内の京都支部研究発表会参加申込みについて (http://www.jsidre.or.jp/newinfo/kyoutoshibu_kennkyuuhappyoukai.htm) にアクセスし、参加申込書をダウンロードして下さい。参加申込書に必要事項を記載の上、E-mail にて tsu_eia@cub.jtb.jp まで送付していただきますようお願いいたします。（E-mail が使用できない場合は、FAX・郵送でも受付いたしますが、事務の簡素化のため E-mail の使用にご協力をお願いします。）

(2) 申込期限 平成 22 年 9 月 3 日（金）

- | | | |
|----------|-------|---------|
| (3) 参加費等 | 研究発表会 | 4,500 円 |
| | 情報交換会 | 4,500 円 |

現地研修会 5,000 円（昼食代含む）

(ア) 昼食

会場付近にレストラン等はございますが、混雑が予想されます。弁当を 1,000 円／個（税込み・お茶付）で事前予約にて受け付けていますのでご利用下さい。

(イ) 参加費の納入

申込みを受け付けた後、(株) JTB 中部より 9 月下旬以降に確認書・請求書を送付いたしますので、内容を確認のうえ、参加費を「6. 申込・振込先・問い合わせ先」の振込先へ 10 月 29 日（金）までにお振り込み下さい。振込手数料については振込人負担をお願いします。

なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承下さい。

(4) 宿泊施設の斡旋

宿泊の斡旋は、(株) JTB 中部を通じて行います。ご要望の方は、農業農村工学会ホームページ内の京都支部研究発表会参加案内の宿泊斡旋施設一覧表の中からホテルをお選びいただき、該当するホテルの記号を参加申込書に記載して下さい。なお、客室数の都合上ご希望に添えない場合がございますのでご了承下さい。

7. 申込・振込先・問合せ先

(1) 申込先

(株) JTB 中部 担当：中澤
〒514-0031 三重県津市北丸之内 12
申込用 E-mail : tsu_eia@cub.jtb.jp
(取り消しも E-mail で結構です。)

☎059-228-0203 FAX 059-224-9831

営業時間：平日 10：00～17：45（土日祝日休業）

(2) 振込先

三菱東京 UFJ 銀行 振込集中錦支店
普通 5573029
口座名 株式会社 JTB 中部

8. 事務局

三重県農水商工部農業基盤室内
第 67 回農業農村工学会京都支部研究発表会運営委員会事務局 担当：安田、伊藤、石崎

☎059-224-2604（直通） FAX 059-224-3153

E-mail : yasudak02@pref.mie.jp

itout20@pref.mie.jp

ishizy00@pref.mie.jp

第48回畑地かんがい研究集会の開催について(第2報)

テーマ「くだもの王国を支える栽培・灌漑技術」

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 開催日

- (1) 研究集会 平成22年8月26日(木)
 (2) 現地研修会 平成22年8月27日(金)

16:30~17:00 総合討論
 17:00~17:10 閉会

岡山大学農学部 榊田正治

2. 場所

(1) 研究集会

岡山大学五十周年記念館

〒700-8530 岡山市北区津島中 1-1-1

岡山大学五十周年記念館の位置図は岡山大学のホームページ (http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/soumu-access_tsushima_all.html) をご覧下さい。

(2) 現地研修会

倉敷市(県営かんがい排水事業備南地区, 倉敷美観地区, 酒津公園)の現地視察

(3) 岡山大学津島キャンパスへの交通手段

「JR岡山駅西口バスターミナル」のバスのりばから, 岡電バス「岡山大学(津島キャンパス) 経由岡山理科大学」行き(47系統)に乗り, 「岡大西門」で下車。所要時間は約20分(190円)です。

その他にも数路線ありますが, 詳細は岡山大学のホームページ (http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html) をご覧下さい。

17:40~19:00 情報交換会(岡大学生協ピーチユニオン)

(2) 現地研修会 平成22年8月27日(金) 8:30~16:00
 8:00~8:30 集合・受付(集合場所はJR岡山駅前, 詳細はホームページ等にてお知らせします。)

9:40~11:10 県営かんがい排水事業備南地区(倉敷市玉島)

11:40~13:40 倉敷美観地区

(倉敷美観地区内で昼食出来る場所があるため, 昼食はご用意致しません。)

14:00~14:45 酒津公園

15:00 JR倉敷駅(倉敷駅において解散希望者がいる場合)

16:00 JR岡山駅解散

3. プログラム

- (1) 研究集会 平成22年8月26日(木) 10:00~17:10
 9:30~10:00 受付
 10:00~10:20 閉会
 10:20~11:10 「食料・農業・農村基本計画の策定, 低コスト樹園地整備の取り組み」
 中国四国農政局事業計画課 塩澤賢一
 11:10~12:00 「岡山県の農業農村整備事業」
 岡山県農林水産部 平井秀人
 12:00~13:00 昼食
 (昼食はご用意致しませんので, 大学構内の学生食堂または大学周辺の食堂をご利用下さい。)
 13:00~14:00 「最近の畑地かんがい資機材」
 機材展示会社
 14:00~14:50 「岡山のくだもの栽培」
 岡山大学農学部 久保田尚浩
 14:50~15:00 休憩
 15:00~15:50 「果樹の栽培技術と水管理」
 日本園芸農業協同組合連合会 高辻豊二
 15:50~16:40 「灌漑の新技术: 毛管防根給水紐によるトマト栽培法」

4. 参加費用等

- (1) 研究集会(8月26日)
 学生無料, 部会員4,000円, 非部会員5,000円
 (2) 情報交換会(8月26日)
 学生3,000円, 部会員・非部会員5,000円
 (3) 現地研修会(8月27日)
 学生2,000円, 部会員4,000円, 非部会員5,000円
 (注) 非部会員の方も畑地整備研究部会に入会していただければ, 今回から部会員価格で参加できます。入会を希望される方は, 「第48回畑地かんがい研究集会参加申込書」の所定欄に○をご記入下さい。部会員として登録致します。部会員になっていただくと, 登録されたメールアドレスや所属住所に, 研究集会, 企画セッション, シンポジウムの案内のほか, 畑地農業に関わる情報をお送り致します。入会金・年会費などは一切ありません。なお, (社)畑地農業振興会の会員の方も部会員価格で参加できますが, この機会に研究部会に入会していただきますようお願い申し上げます。

5. 参加申込み

- (1) 申込方法
 「第48回畑地かんがい研究集会参加申込書」(畑地整備研究部会または(社)畑地農業振興会のホームページよりダウンロードできます)に必要な事項を記載の上, E-mail(添付ファイルとして)または郵送で下記の申込先にお送

り下さい。

(2) 申込先

郵送：〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1

岡山大学大学院環境学研究科 三浦健志

E-mail : miurat@cc.okayama-u.ac.jp (E-mail で申込みの方は、件名に「畑地かんがい研究集会参加」と記述して下さい。併せて morot@cc.okayama-u.ac.jp へ cc メールして下さい。)

(3) 申込期限 平成 22 年 7 月 31 日 (土)

(4) 参加費の振込み

上記の「第 48 回畑地かんがい研究集会参加申込書」による申込みと同時に、講演会費、情報交換会および現地研修会の参加費を下記へお振込み下さい。参加費を予め振込めない場合は、振込予定日を申込書に記入して下さい。なお、当日会費を持参されますと、受付が混乱しますのでご遠慮願います。なお、振り込まれたお金は返金致しませんのでご了解下さい。

振込み期限：平成 22 年 8 月 13 日 (金)

振込口座：中国銀行法界院支店 (店番 104)

普通 1912893

口座名義：農業農村工学会畑地整備研究部会部長
三浦健志

6. 各種問合せ先

○畑地整備研究部会事務局

〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1

岡山大学大学院環境学研究科 三浦健志、諸泉利嗣

TEL&FAX 086-251-8876

E-mail : miurat@cc.okayama-u.ac.jp

morot@cc.okayama-u.ac.jp

○畑地農業振興会畑地かんがい研究集会係

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-3-11

☎03-3438-2581 FAX 03-3438-2583

E-mail : hatasin@muj.biglobe.ne.jp

研究集会の詳細は畑地整備研究部会または (社) 畑地農業振興会のホームページに掲載しておりますのでご覧下さい。

畑地整備研究部会 HP :

<http://www.jsidre.or.jp/bukai/hatachiseibi/newpage1.html>

(社) 畑地農業振興会 HP :

<http://www.1a.biglobe.ne.jp/hataasin/>

農村計画研究部会第 32 回現地研修集会の開催について

主催：農村計画研究部会 後援：中国四国農政局、香川県、水土里ネット香川 協賛：農村計画学会

技術者継続教育認定プログラム



1. 日 程 平成 22 年 9 月 9 日 (木) ~10 日 (金)

2. 会 場 アルファあなぶきホール (香川県県民ホール)

小ホール (研修集会) および高松周辺 (現地検討会)

3. テーマ 水で結ぶ新たな絆を次世代に

4. 趣 旨

ため池や農業用水路など先人の築いた貴重な土地改良財産 (社会資本) を、次世代に継承していくことは我々土地改良従事者の責務である。これら社会資本について、良好な状態で保全管理を行い、有効活用するためには、縮小社会の進行に伴い崩壊しつつある土地改良区や自治会など地域に残る「共」を再生し、「人」と「人」との関わりあいについて、もう一度見つめ直すことがきわめて重要である。「人のつながり」から生まれる連帯感を育み醸成することこそ、新たな時代にふさわしい「魅力あるむらづくり」の基礎である。本研修では、数多くのため池と瀬戸内の風光に囲まれたみどり豊かな讃岐平野に息づく水の歴史や、利水の仕組みを軸とした農山漁村における営みについて紹介するとともに、香川県における先進事例や研究成果を学ぶことにより、参加者の知見を広げ、今後の農村計画に反映することを期待して企画した。

第一日目の研修集会では、「安全で快適な魅力ある農山漁村を築くために」、「香川県の農業農村整備の展開方向について」、「多様な主体の参画による農村の振興」、「住民の創意と工夫による地域づくり」、「水圏環境改善技術開発」、「全国の農業農村

を巡る情勢」等の講演・報告を行う。

第二日目の現地検討会では、研修集会に対応した整備事例、多様な主体が参画した活動事例等を見学する。

5. プログラム (案)

(1) 研修集会 平成 22 年 9 月 9 日 (木) 10:00~16:40

アルファあなぶきホール 小ホール

基調講演 「多様性を考える」香川大学長 一井眞比古

基調報告 「香川県の農業農村整備の展開方向について」 香川県

事例報告 1 「ため池を中心とした農村環境づくりを目指して」

油井水土里保全組合代表 牧野忠弘

事例報告 2 「住民の創意と工夫による地域づくり」

香川大学工学部教授 白木 渡

事例報告 3 「水圏環境改善技術の開発について」

香川大学工学部准教授 山中 稔

情勢報告 「全国の農業農村を巡る情勢」 農林水産省

(2) 現地検討会 平成 22 年 9 月 10 日 (金) 8:00~15:40

(解散は JR 高松駅、高松空港途中下車可)

候補地区：ため池 (豊稔池)、香川用水記念公園、香川用水調整池 (宝山湖)、農地・水・環境保全向上対策実施地区

6. 参加費用

研修集会参加費 5,000円

現地検討会 5,000円 (うち昼食代1,000円)

7. 参加申込み

参加をご希望の方は、参加申込書ファイル(本学会ホームページからダウンロードしてください)に所要事項をもれなく記入の上、現地運営事務局までE-mailに参加申込書ファイルを添付してお送り下さい。原則として団体ごとにまとめてお申し込みいただきますようご協力をお願いいたします。なお、第二日の現地検討会につきましては、バスの都合上先着100名に達し次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。

(1) 申込期限 平成22年7月30日(金)

(2) 申込先

農村計画研究会現地研修集会現地運営事務局

〒760-8570 香川県高松市番町4-1-10

香川県農政水産部土地改良課 担当: 亀井, 藤重

E-mail: tochikai@pref.kagawa.lg.jp

☎087-832-3437 (ダイヤルイン) FAX 087-806-0205

(3) 参加費の納入

参加申込票に記載している指定口座にお振り込み下さい。なお振込手数料は参加者のご負担でお願いいたします。

(4) 申込みの変更・取消

8月7日(土)までに現地運営事務局までE-mailまたはFAXにてお申し出下さい。ご参加いただけない場合でも参加費の一部は申し受けますので、あらかじめご了承下さい。

8. その他

詳細は、本学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/bukai/keikaku/bukaitop.htm>) をご覧下さい。

農地保全研究部会第31回研究集会の開催について (第1報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 開催日

(1) 研究集会 平成22年10月7日(木)

(2) 現地見学会 平成22年10月8日(金)

2. 場所

(1) 研究集会 群馬県市町村会館

〒371-0846 群馬県前橋市元総社町335-8

☎027-290-1366

(2) 現地見学会 群馬県嬭恋地域(予定)

3. 研究集会テーマ 未定

4. 問合せ先(事務局)

東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科

農地環境工学研究室 藤川

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

☎03-5477-2340

5. その他

詳細は本誌8月号に掲載予定。

平成22年度資源循環研究部会研究発表会の発表申込みについて

技術者継続教育プログラム認定申請中



資源循環研究部会では、農村における水循環やバイオマスの利活用に係る技術の発展およびこれら技術に関心を有する者の学術交流を目的として、研究発表会を開催します。

つきましては、農業農村工学会会員および資源循環研究部会員の皆様方から広く発表者を募りますので、積極的なご応募・ご参加をお待ちしています。

なお、発表会の聴講申込みにつきましては、詳細が明らかになり次第お知らせします。

1. 開催日(予定)

平成22年11月17日(水)~11月19日(金)のうち一日
10:00~16:00

バイオマスエキスポ2010の併催セミナーとして開催。

2. 会場 東京ビッグサイト

3. 内容

農村における水やバイオマス等資源の利活用及び循環に係る調査・研究の最新成果

4. 発表要領

(1) 発表者の資格

農業農村工学会資源循環研究部会員とします。(申込みと併せての入会も可能です。)

(2) 発表の内容

農村における水やバイオマス等有機資源の利活用および循環に係る調査・研究の成果(農業集落排水技術、バイオマス利活用、水資源再利用、汚泥再資源化技術等)

(3) 発表方法

個人発表とし、1人(共同研究の場合は口頭発表者)1課題とします。

発表を補助する映像機器として、パソコンおよびプロジェクターを用意します。

(4) 発表時間

20分程度/人(発表17分、質疑応答3分程度)の予定です。

(5) 論文集

論文集を作成し配布します。

(6) その他

優秀な論文については、部会長賞を与え、発表会場で

表彰することを予定しております。

5. 申込方法

(1) 発表申込み

- ①申込用紙の提出をもって申込みとみなします。
申込用紙は研究部会 HP よりダウンロードして下さい。
- ②原則として電子メールにて受け付けます。受理次第、当方から確認のメールを送信させていただきます。
- ③締切は平成 22 年 7 月 30 日 (金) とします。
- ④なるべく多くの方に発表してもらおう考えですが、応募総数、内容によってお断りする場合があります。応募者へは 8 月上旬に通知する予定です。

(2) 投 稿

- ①発表が決定した応募者には、論文を作成していただきます。論文集原稿作成要領を研究部会 HP に掲載して

おります。

②投稿締切は平成 22 年 8 月 31 日 (火) とします。

③論文は、査読委員会にて査読を行い、場合によっては加筆修正をお願いする場合があります。

(3) 申込み・問合せ先

農業農村工学会資源循環研究部会
事務局：(社) 地域資源循環技術センター
集落排水部企画班 (担当：濱井)
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-3
日本赤十字社ビル
☎03-3432-6282 FAX 03-3432-0743
E-mail : sigen@jarus.or.jp

研究部会 HP :

<http://www.jarus.or.jp/news/030617sigentop.html>

第 23 回水文・水環境研究部会シンポジウムの開催について

技術者継続教育プログラム認定申請中



水文・水環境研究部会では、第 23 回シンポジウムを開催します。講演申込み、参加申込みについては下記のとおりです。

- 1. 期 日 平成 22 年 11 月 25 日 (木), 26 日 (金)
- 2. 会 場 宇都宮大学峰キャンパス大学会館多目的ホール
〒321-8505 宇都宮市峰町 350
会場へのアクセスは、<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/map/map01.html> をご覧下さい。
- 3. プログラム (予定)
11 月 25 日 (木)
13:00~13:30 受付
13:30~17:30 研究会
18:00~20:00 情報交換会
11 月 26 日 (金)
9:00~12:00 研究会
- 4. 講演内容 農林地および広域の水文・水環境
- 5. 講演時間 1 課題 30 分程度 (質疑応答も含む)
- 6. 参加費 研究会参加費 1,000 円
情報交換会参加費 5,000 円 (予定)
- 7. 講演申込み
一般講演を募集します。講演原稿は 10 頁以内で部会誌「応用水文 No. 23」に「論文 (査読原稿)」もしくは「部会報告 (査読無し原稿)」として掲載され頒布されます。申込締切は 10

月 1 日 (金), 原稿提出締切は 10 月 15 日 (金) です。講演申込時には講演題目、講演者名、連絡先 (住所, TEL, FAX, E-mail), 原稿種別をお知らせ下さい。なお、講演原稿の書式等については部会ホームページをご覧ください。か水文・水環境研究部会事務局へお問い合わせ下さい。

8. 研究会・情報交換会の参加申込み

氏名、連絡先 (住所, TEL, FAX, E-mail) および参加項目 (研究会・情報交換会) を記載の上、下記の水文・水環境研究部会事務局あて FAX または E-mail でお申し込み下さい。参加申込締切は 11 月 12 日 (金) です。

9. 申込み・原稿送付および問合せ先

講演申込みおよび研究会・情報交換会参加申込み、原稿送付およびその他シンポジウムに関するお問合せは下記の水文・水環境研究部会事務局までお願いします。また、最新情報および詳細情報は部会ホームページ (<http://ealfor.ans.kobe-u.ac.jp/hydenv/index.html>) に掲載されます。

水文・水環境研究部会事務局
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350
宇都宮大学農学部農業環境工学科 松井宏之あて
TEL & FAX 028-649-8638
E-mail : matsuih@cc.utsunomiya-u.ac.jp

10. 宿泊申込 宿泊の斡旋は致しません。

ICID 第 21 回総会、第 8 回国際マイクロ灌漑会議における発表論文の募集について (第 2 報)

2011 年 10 月に、イラン・テヘランにおいて、国際かんがい排水委員会 (ICID) 第 21 回総会および第 8 回国際マイクロ灌漑会議が開催されます。

ICID 日本国内委員会は、下記の要領に従い、上記会議にお

ける発表論文を募集いたします。投稿をご希望の方は、別記の連絡先までご連絡下さい。なお、提出いただいた要旨と結論 (Summary and Conclusion) は、ICID 日本国内委員会で内容を確認した後に、会議主催者に提出いたします。

1. 会議開催概要

開催期間：2011年10月15日(土)～23日(日)

開催場所：イラン・テヘラン

2. 発表者募集の対象会議

ICID 第21回総会

ICID 第8回国際マイクロ灌漑会議

3. 募集テーマ

(1) ICID 第21回総会

【総会テーマ】

Water Productivity Towards Food Security (食糧安全保障
に対する水の生産性)

【総会議題】

1) Water and Land Productivity Challenges (水と土地の
生産性に関する課題)

2) Water Management in Rainfed Agriculture (天水農業
における水管理)

【スペシャルセッションテーマ】

Modernization of Water Management Schemes (農業用水
管理計画の近代化)

【シンポジウムテーマ】

Climate Change Impacts on Soil and Water Resources (土
壌と水資源に対する気候変動の影響)

【セミナーテーマ】

Possibilities of Using Traditional Methods in Modern
Water Management Systems (近代的な水管理システムにお
ける伝統的手法適用の可能性)

(2) ICID 第8回国際マイクロ灌漑会議

【マイクロ灌漑会議テーマ】

Innovation in Technology and Management of Micro irri-
gation for Enhanced Crop and Water Productivity (作物生
産拡大に向けたマイクロ灌漑技術と管理の革新)

なお、総会議題およびマイクロ灌漑会議テーマのサブテーマ
は、第21回総会および第8回国際マイクロ灌漑会議のウェブ
サイト (<http://icid2011.org/>) の Call for Papers および日本
語ページに記載されておりますのでご確認ください。

4. 参加表明および要旨と結論の提出

2010年7月28日(水)までに論文提出者の氏名を、2010年
8月13日(金)までに要旨と結論 (Summary and Conclusion)

をそれぞれ E-mail で、8. に記載の宛先まで、ご提出下さい。

5. 作成要領

要旨と結論を 500～600 字の英文で作成。連絡先著者の氏名
をファイル名としたワードデータ(例. 総研太郎の場合, souken
_tarou.doc) とし、ページ冒頭に論文タイトル、著者と共著者
名、所属、各著者の住所、電話番号、FAX 番号、E-mail アド
レスをご記載下さい (連絡先著者を最初に記載)。

なお、提出いただいた要旨と結論については、日本国内委員
会で内容を確認いたします。その結果については、2010年8月
27日(金)までにご連絡いたします。

詳細は、第21回総会および第8回国際マイクロ灌漑会議の
ウェブサイト (<http://icid2011.org/>) でご確認ください。

6. 論文の作成

Full Paper の作成要領は、第21回総会および第8回国際マ
イクロ灌漑会議のウェブサイト(英語)に掲載されている Call
for Papers をご参照下さい。主催者より追加情報があれば、
発表予定者にご連絡いたします。なお、Full Paper について
は、2011年2月22日(火)までにご提出下さい。

7. 今後の予定

・日本国内委員会の論文参加氏名登録の締切

2010年7月28日(水)

・会議主催者への論文参加氏名登録の報告

2010年7月30日(金)

・日本国内委員会の要旨と結論の締切

2010年8月13日(金)

・会議主催者への要旨と結論の提出

2010年9月1日(水)

・会議主催者による要旨と結論の受理の公示

2010年12月15日(水)

・日本国内委員会の Full Paper 締切

2011年2月22日(火)

・会議主催者の Full Paper 締切

2011年3月1日(火)

8. 論文送付先および連絡先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門 NN ビル
(財)日本水土総合研究所 (ICID 日本国内委員会事務局)

☎03-3502-1576 FAX 03-3502-1329

担当：福田 康 yasushi-fukuda@jiid.or.jp

高野 伸 shin-takano@jiid.or.jp